

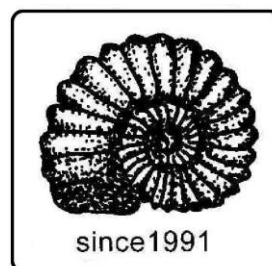
令和5年度 第1回 山形市総合学習センター運営協議会

令和5年5月31日(水)
15:30~16:45
会場:多目的研修室

I 出席者

【委員】津留俊介委員、関口雄一委員、戸田雅大委員、横倉晋也委員、
阿部慶子委員、西村仁美委員、花輪千秋委員、丹羽秀樹委員、
芦野均委員、渡邊玲子委員 (計10名)

【事務局】馬場総合学習センター所長
花輪総合学習センター指導主事
白田総合学習センター指導主事
元木総合学習センター指導主事
板垣学校教育課主任指導主事 (計5名)



II 傍観者 0名

III 会議

1 開会

2 委嘱状交付

3 所長あいさつ

4 運営協議会委員の自己紹介と職員紹介

5 運営協議会長あいさつ

6 協議

(1) 令和4年度事業報告… 資料をもとに、事務局担当者から報告。

(委員) 教育相談の受付件数は、新規の受付の数か、継続も含む数か。

(事務局) 新規と継続が混ざった延べの回数での表記。

(委員) 適応教室「風」の受け入れ可能な最大人数はどれくらいか。

(事務局) 相談員5名で対応し、中研修室で活動をしている。活動場所の受け入れ可能人数としては、一斉であれば30名程度と考えている。

(委員) 常に通級児童生徒全員がきているというわけではないのか。

(事務局) 名簿にある児童生徒全員が毎日出席している訳ではない。児童生徒によって、通級する曜日が決まっている子もいる。

(委員) 児童生徒がどのぐらいの人数だと指導しやすいか。

(事務局) 現在、相談員1人につき、5~6名ぐらいの児童生徒を担当している状態。そのぐらいが適当だと考えている。

(委員) 特別支援相談員活動実績の相談が、令和2年度から比べると倍増しているが、コロナの影響と考えられるのか。

(事務局) コロナの影響がないとは言えないが、必ずしもコロナ禍が原因ではないと考え

ている。

(委員) 主務者研修「理科主任研修会(中学校)」は参加人数が15人となっているが、全ての中学校からの参加なのか。

(事務局) 当日の欠席を除いて、全ての中学校からの参加である。

(委員) 加速度的にデジタル化が進んでいる。デジタル教材の説明資料で動画を見せていただき、とても臨場感があってよかった。情報教育の推進も市教委としての使命である。山形市が全国に先駆けて行ってほしい。

今の時代、山形市にも様々な国籍の児童生徒がいると思われるが、デジタル教科書の多言語化についてお聞きしたい。

(事務局) 現在提供されているデジタル教科書は、英語版のものとなっている。これから教科書会社にも要望していきたい。

(委員) 英語以外の言語に対応している教科書会社もある。山形市でもこれから入れていくのか。

(事務局) 山形市で採択した教科書を市では使うことになる。多言語に対応するようなソフトウェアについて検討の余地はある。

(委員) 日本語以外の言葉で話す子どもの需要は山形市ではあまりないのか。

(事務局) 日本語支援を派遣して対応している。

(委員) これからニーズが増えてきたときに、その対応を考えなければいけない。

(委員) 情報モラルに関する実態調査において、スマートフォンの所持率が中学校2年生及び3年生で80%となっているが、残りの20%は「持たない」のか、「持てない」のか、「持たせない」のか。

(事務局) 理由までの調査はしていないが、「持たせない」という家庭方針の家庭もある。

(委員) 理科教育センター事業のおもしろ実験教室は、6回とも理科教育センターが関与しているものか。

(事務局) 6回のうち3回が理科教育センター、3回が山形大学で実施している。

(委員) タブレットの所持についての調査は行っているか。

(事務局) 調査は行っているが、顕著な状況はなかった。タブレットは、個人で所持しているというよりも、家族で所持していることが多い状況である。

(委員) コロナ禍でスマートフォンの所持率は上がったのは、家から出ないといったコロナの影響もあるか。

(事務局) コロナの影響はあまりないと考えている。

(委員) 防犯の意味合いで持たせているということもある。所持していな2割の子どもたちは、やはり家庭で「持たせない」ということなのではないだろうか。

(2) 令和5年度運営方針および事業内容…資料をもとに、事務局担当者から報告。

(委員) 不登校の生徒をもつ母親から聞いた話で、勉強はプリント等を学校から配布してもらい進めているそうだが、タブレットを使った学習、教室と家庭をつなぐ等、ICTを活用するの研修も先生方に行ってほしい。

(事務局) 検討します。

(委員) 人をつなぐのはやはり人だと思うので、ゆっくり取り組んでほしいと思う。

(委員) 小学校では、タブレットを「お家でも使ってみませんか」と呼び掛けて使用し

ている。学校に登校することが難しい児童に対しては、授業の様子をタブレットを通して家庭で見るといった使い方も考えられる。ただし、子どもたちには、機械ではできない体験的なことにも取り組んでほしいという思いがある。フリースクール等も最近では増えてきたので、様々な機関と連携しながら、それぞれのお子さんにとって一番よい方法を学校も一緒に考えていくことが大切だと考えている。

また、学習センターの教育相談員の増員は、多様化している特別な支援を要する児童生徒に対応していくためであると受け止めている。学校に赴いての学校の困りごとに寄り添って助言してほしいと願っている。

(事務局) 増員したことで、現場に赴くことも増えるのではないかと考えている。また、相談の件数がかなり増えているので、そちらの対応も急務である。

(委員) 次回の資料について、山形市における不登校児童生徒の人数推移も合わせて提示するとよい。

また、情報モラルに関する実態調査について、「使ったことがあるネットワークサービスについて」の設問で、「チャットを使ったことがありますか」の質問も加えるとよいのではないか。

7 その他

8 次回の協議会について

令和6年2月8日(木) 午後3時30分～午後4時45分

9 閉 会